

会 議 録

名 称	酒田市子ども・子育て会議（令和5年度第2回）	
内 容	<p>○会長及び副会長の選出</p> <p>○協議</p> <p>（1）令和6年度保育所等利用定員の変更について</p> <p>○報告</p> <p>（1）令和6年度主な子ども・子育て支援事業について</p> <p>（2）令和6年度保育所等入所申込状況について</p> <p>（3）ファミリー・サポート・センター利用料金等の変更について</p> <p>（4）第3期子ども・子育て支援事業計画の策定について</p> <p>（5）その他</p>	
日時・場所	<p>令和6年2月14日（水曜）午前10時30分～12時10分</p> <p>酒田市民会館「希望ホール」小ホール</p>	
出席者	委 員	<p>伊藤 秀和委員、高橋 直貴委員、畑山 円香委員、佐藤 真紀委員、</p> <p>佐々木 由子委員、梅津 満希子委員、池田 祐子委員、齊藤 公乃委員、</p> <p>佐藤 多紀子委員、宮田 浩一委員、五十嵐 勤委員、加藤 武雄委員、</p> <p>齋藤 雄一委員、佐藤 由夏委員、白畑 真由美委員、伊藤 直子委員</p>
	事務局	健康福祉部長、こども未来課長、保育こども園課長、学校教育課課長補佐ほか
会議の結果	別紙のとおり	
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出欠席名簿 ・ 資料1 令和6年度保育所等利用定員の変更について ・ 資料2 - 1 令和6年度主な子ども・子育て支援事業について（こども未来課） ・ 資料2 - 2 令和6年度主な子ども・子育て支援事業について（保育こども園課） ・ 資料2 - 3 令和6年度主な子ども・子育て支援事業について（学校教育課） ・ 資料3 令和6年度保育所等入所申込状況について ・ 資料4 酒田市ファミリー・サポート・センター利用料金等の変更について ・ 資料5 第3期酒田市子ども・子育て支援事業計画の策定について ・ 酒田市子ども・子育て会議条例 	

酒田市子ども・子育て会議（令和5年度第2回）

日時：令和6年2月14日（水曜）
午前10時30分～12時10分
場所：酒田市民会館「希望ホール」
小ホール

～ 1 開 会 ～

○こども未来課課長補佐（開会）

※委員20名中16名出席により、酒田市子ども・子育て会議条例第7条第2項（定足数）の規定を満たすことを確認。

～ 2 健康福祉部長あいさつ ～

○健康福祉部長（あいさつ）

～ 3 自己紹介、会長及び副会長の選出 ～

（配付資料について確認後）

○委員及び事務局（自己紹介）

○こども未来課課長補佐

続いて、会長及び副会長の選出に移らせていただきます。

酒田市子ども・子育て会議条例第6条第1項において「子ども・子育て会議に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によりこれを定める」こととしております。令和5年11月に委員の任期が満了しておりますので、本日、あらためて会長及び副会長をご選出いただきたいと思っております。

では、どなたか推薦はございませんでしょうか。

（推薦なし）

○こども未来課課長補佐

もしなければ、事務局案を提案させていただきますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○こども未来課課長補佐

事務局案としまして、会長に、東北公益文科大学において、准教授として児童家庭福祉、発達支援などについて研究されています、白畑真由美委員に新たにお願ひしたいと思ひます。また、副会長には、学校運営において子どもや保護者の事情にお詳しい、酒田市小学校長会の齋藤雄一委員に引き続きお願ひしたいと思ひます。

以上、提案させていただきます。賛成の方は挙手をお願ひいたします。

(挙手多数)

○こども未来課課長補佐

挙手多数であります。それでは会長を白畑真由美委員に、副会長を齋藤雄一委員にお願ひいたします。それでは、お二方からあらためてご挨拶いただければと思ひます。

○白畑会長（あいさつ）

○齋藤副会長（あいさつ）

○こども未来課課長補佐

子ども・子育て会議条例第6条第2項において、会長は会議の議長となる、としております。では、白畑会長からは議長席に移動していただきたいと思ひます。

～ 4 協 議 ～

○白畑会長

それでは次第に従いまして進めさせていただきます。協議事項として、まず、(1) 令和6年度保育所等利用定員の変更について、資料1により事務局から説明をお願いします。

○保育こども園課長

(資料1により説明)

○白畑会長

ただいま事務局より、令和6年度保育所等利用定員の変更について説明がありました。このことに関して、ご意見またはご質問などがあれば、お聞きしたいと思ひますが、皆様いかがでしょうか。保護者の皆様、保育園・幼稚園関係の皆様どうでしょうか。

○伊藤 秀和委員

ちょっとわからない点があったのでご質問させていただきたいと思います。こちらの表で、定員数の変更に関しては園ごとに示されているかと思うんですけども、こちらは結構大幅に増えているところ、十坂こども園が35名増えていたり、グレイアウトしているところが結構減っているなというふうに認識をしているんですけども、ここっというのは、現在の来年度の入園が見込まれる園児達の数に準じて試算をされているという認識でよろしかったでしょうか。

○保育こども園課長

次年度の入所申し込みというのが、例えば令和6年度の入所申し込みは、令和5年10月に行っています。1カ月間で行っております。その入所の調整がおおよそできるのが1月、来年度で言えば今年の1月に入所調整が大体の部分が終わっているというところなんです。この利用定員を見込んで、各法人園の方では、理事会に諮っていただいて、酒田市に変更協議というものを提出いただいています。私どもは、その変更協議をいただいて、提供量の確保ができていくかというようなことを総合的に判断いたします。今申し上げたように利用実数というか、利用の見込み数を下回らないように変更ができるか、かつ、各法人がきちんと運営ができるかというようなことも総合的に判断しまして、この数字で問題ないというふうに判断をしているところでございます。補足してお話すると、この子ども・子育て会議で、この変更が承認されるということになった後は、各法人園の方にまたこの話を戻しまして、法人の理事会で再度この変更するというのを、市の方に報告いただいて、市は県の方に進達ということでご報告させていただくような流れになります。4月1日から新たな定員数で運営を図っていただくということになります。

○伊藤 秀和委員

理解しました。個人的な興味というか気になっている部分として、こうやって大幅な減があったときに、何か先生たちの配置も変わってくるのかなと思っていて、全体が減る中で先生たちは保育園に勤められないパターンとかもあったりするんですか。その行先がちょっと気になりました。

○保育こども園課長

実際には、保育士の数は常に足りてないというような、保育の世界では常に求めているという状態です。皆さんもご存じというかニュース等でもございますけれども、少し支援が必要な子の割合が増えてきているということもありまして、例えば1対1の保育が必要になったりする場合も出てきています。ですので、仮に定員数を下げたとしても、雇用がなくなるということではないというふうに思っているところではあります。現場のご意見、何かございましたら、池田先生、齊藤先生のあたりからご発言いただけるとよろしいかなと思います。いかがでしょうか。

○池田 祐子委員

各園さんの定員変更の数字を見て、予想以上にだいぶマイナスになっているなどというので、少子化ということで定員が減っていくというのは予想してはいたんですが、この落ち込み方は尋常じゃないなというのを感じています。今お話あったように、各園さん職員の確保だったりというのはそれぞれなので、私がここで各園それぞれのことを申し上げるわけにはいかないんですけども、ただハローワークさんとかの求人を見ておきますと、やはり保育園の求人というのはいないんですね。今出ているのは、認定こども園さんの求人だけで、保育園さんの求人はやっぱりないんだなというのを見ていました。あと、先ほど言ったように、支援が必要なお子さんだったり、あとは定年された方がいたら補充しないとか、そういったところで、いろいろ各園さんで考えられているのではないかなと思います。あと、ちょっとお聞きしたかったのが、公立園さんのことなんですけれども、松陵さんが1年間（閉園が）延びたということがありました。今現在みなとさん、支援センターとか、大変利用される方も多くて、子育てママたちが非常にありがたい存在ではないかなと感じています。その中で、今この公立園さんの定員変更というのは出されていないわけなんですけれども、一般財源なので出されていないかなと思うんですけども、ただ今後、旧町の保育園さんとかも、今どのぐらいの充足率、園児さんが入っているのか、その辺がちょっと情報がなくてわからないんですけども、今後その法人の方もいろいろ身を削りながら頑張っているわけですので、公立園の存続というか、今ここではっきりしたお話は聞けないとは思いますが、どんなふうな形で今後進められていくのかなと非常に興味のあるところなので、お聞きしたいと思います。

○保育こども園課長

先ほどの雇用の関係については、現場ということでうえだ保育園の園長先生から少しお話をいただいたところですが、お話あったように、定年される先生方もいらっしゃるということで、そこをきっかけにして定員を減らしていくというようなタイミングを計っている園もあるのかなとは思っているところです。今池田委員の方から質問がありました公立園の運営ですけれども、今年度の充足率というか定員の率については後ほど数字をお出ししたいと思います。今後については、松陵園を1園閉園、令和8年の3月末です。7年度末で閉園ということになったんですけども、それだけでは当然他の法人保育園の充足率が上がるわけではございません。市街地にあるみなと保育園も、今年度ゼロ歳児は少し人数を絞っております。というのは、公立園も定員というのを設けてはいるんです。それは規模によって面積によって定員を設けているところではありますが、公立園で担うというところの保育を、各法人園及び認定こども園さんで担っていただくというのが、あるべき姿かなというところは、以前から変わっていないところでもあります。ただ、今公立園として存続しているという部分については、酒田市全体で保育環境の整備というところでは、一緒に頑張りたいなとは思っているところではありますが、方向性としては、やはり絞っていく、定員を絞りながら経営をしていくということになるのかなと思います。ただ、旧3町であります八幡・松山・平田については、なかなかその地域の保育園が1つしかないということもございますので、定員数が少なくても閉園という形はなかなか難しいのかなというのが印象としてございます。

○健康福祉部長

今、村上の方から説明ありましたが、本市では平成16年のとき保育園の民間移管計画というのを策定しております。民間でできることは民間でという大きい方針の中で、保育という部分に関して、民間でできるのであれば、すべて民間に移管しましょうと動いたわけですが、平成30年のときに計画変更しております。そのときは、逆に民間の保育園さんなりこども園さんの方からご意見いただいたのが、一時預かりであったり、休日の預かりであったり、なかなか民間ではすべてサポートできない部分、その部分についてはできれば公立でやっていただきたいという要請もございました。その部分も含めて、公立ではどうあるべきかということを考えて、一部公立を残すという方向に変更しております。ただ、基本的には民間でできることは民間でというのが大前提になりますので、本市としましては、基本的に公立園については、今の説明あった通り、全体の特別保育の機能っていうのは残していかなきゃいけないというものはありますけれども、通常の保育の部分に関しては一定程度定員を落としていきたいというふうに考えております。ただ、定員の考え方としては、民間さんの定員に関しては適正な数字じゃないと経営に大きく影響する。つまり、定員に合わせた単価が設定されますので、見直しは出てくると思うんですけども、公立の場合はもともと現在国からの支援が入っておりませんので、定員について変えることによる経営に対する影響がないものですから、現時点では、定数についてはいじっていない状況にはなっております。ただ、現実問題としまして、みなと保育園も令和3年度に浜田と若竹の統合をさせていただいておりますし、八幡・松山・平田についても、平成22年、30年、29年ですね、すべて統合という形で、今1地域1園という形まで落としているという状況にはなっています。今後、当然子どもの減少等を踏まえながら、酒田市全体としての保育の環境のあり方というのを検討していかなければいけないと思っております。その部分に関しては、当然行政が指示するというよりは、一緒になって、民間さんの意見を聞きながら、あるべき姿の検討をさせていただきながら、一緒にその辺を協議させていただければと思っております。まず現時点では、今回うちの方で動きましたけれども、まず松陵保育園、街中にある保育園をまず1園閉園することで一定の調整をかけていきたいと思っております。

○白畑会長

ほかに皆様から何かございますでしょうか。

○佐藤 多紀子委員

今ご説明いただいたことはもう十分理解できたんですけども、多分別件になると思うんですけども質問させていただきたいのが、「子ども誰でも通園制度」というのが始まると思うんです。昨年12月でしたでしょうか、こども家庭庁のオンライン説明会を拝聴させていただいて、この制度についてちょっと見させていただいたところなんですけども、これだけ定員が減って、各園の適切な運営化でといったところで理解できたんですけども、こういう制度が始まる場所において、現状これだけ定員とか園の運営方法が変わっても対

応できるのかなとちょっと思ったところがありまして、その件について現時点で教えていただけたらとお願いしたいと思っております。

○保育こども園課長

「子ども誰でも通園制度」との整合性といいますか、可能なのかというところで、ご質問いただきました。「子ども誰でも通園制度」は、来年度でしょうか、実施ということにはなりますが、定員の中で空き枠があれば、かつ、職員の対応が可能であればということになります。月 10 時間の通園ということで、半日あれば、10 時間のうちの半分がなくなる。また、1 日あれば、ほぼその 10 時間で消費してしまうことになるので、今現時点で酒田市で一時保育を利用されている方も一定数ございますので、それと比べるとやや、ちょっと使いにくい制度かなという印象を持って私共は推移を見ているところではあります。一時預かり保育も今現時点で受け入れをいただいている法人園もございまして、公立園でも一時預かりを受けておりますけれども、それも必ず受けられるという絶対条件ではないので、そこは状況に応じてというところは、今までと変わらないのかなという印象を持っているところではあります。

○白畑会長

そのほか、よろしいですか。

○池田 祐子委員

ちょっとお願いというか、こんなことがあったらいいなということでお話をさせていただきたいと思っております。今こんなに子どもが減っていて、本当に危機的状況だなと感じている中で、じゃあどうやったら、子どもがたくさん、少しでも増えるのかなといったときに、やっぱり子育て支援について手厚く、酒田市にいてこんな子育て支援を受けられるっていう、そういう安心感というか、強力なバックアップがあって成り立つのかなと考えています。子育て支援のあり方というか、お隣の鶴岡なんですけど、各園さんに、子育て支援センターというか、そういうのがあるのでした。今育休を取るママがすごく多くなっていて、やっぱりお家にずっといるというわけにもいかないし、お子さんをどうやって遊ばせたらいいかなあと、ママたちはあちこち出かけてみたり探してみたりしているんだと思います。その中で、酒田は法人では 21 園ある中で、支援センターがあるのはたった 1 つだけ。あとはもうみなさんとか、八幡、松山とかあるわけなんですけれども、絶対的に私は少ないと思っております。そういう中で、先ほど「子ども誰でも通園制度」というのがありましたけれども、そういうことも含めてなんですけど、やっぱり実際にうちの職員なんかも育休とっている中、鶴岡の人だったもんですから、本当にありとあらゆる園さんに行って、今日はここ、明日はここっていうことで、その園さんが独自にいろんなアイデアを出して、足湯だったり、離乳食のことを教えてくれるそういう講座があったりとか、とってもよかったと。なので、子どもたちが減っている中で、各園さんでそういう空き保育室っていうのがもしあるとすれば、大きい子育て支援センターでなくていいので、各園のいろんなその特色であったり、地域性であったり、各園いろんな特色があって、環境もいいところもたくさん

あるので、そういったところで、ママたちが今日はあの園さんのところに行ってみようかなあとか、この園さんに行ってみようかなっていう形で遊びに行ける環境があると、私はお母さんたちにとってはとてもいいことだなと思うし、その園さんでも遊びに来てもらえたらうれしいし、こんな環境があるよ、こんな遊びやってるよってことで、その園さんの入園に結びつくことになれば、もっと先生たちの士気も上がるし、保育の質自体も変わってくるのではないかなと思うんです。だから、何でもかんでも小っちゃくする減らすということではなくて、やはりそういった、今現在あるものを生かしながら、そして子育て世代の方にも喜んでいただけるような、そんなものをできたらいいのかなと思います。なので、いろんなことで予算、予算ということで、本当に苦慮されていると思うんですけれども、まずはそういった各園さんの方に少しでもそういった補助金であったり、助けていただけたところがあれば、そこに職員も充てられるし、皆さんがうまく活用できて、子育てママにとっても心強いし、園にとっても園の方に関心を持っていただける、そういう機会になるのではないかなと思います。大型遊戯施設というのも今ちょっと遅れている状況であるかと思うんですけれども、そういうものもあればもちろんとても目玉だし楽しいと思うんですけど、そういった各園のよさっていうものを皆さんに知っていただいて、利用していただけるような、そういったところも考えていただければ非常にありがたいかなと思います。

○保育こども園課長

子どもの喜ぶもの、子育て世代が喜ぶものということでご意見頂戴しましたが、全くその通りで、子育て支援って、お子さんの支援でもあるんですけれども、お子さんを育てているお母さん世代、お父さん世代を支援するものと理解しております。今おっしゃっていただいた支援センターは、市街地のみなどに酒田支援センターと、八幡、松山、平田の公立園に1つずつ、あと法人保育園さんで西荒瀬保育園さんの方で支援センターを開いていただいております。現状、この5つの支援センターにプラスして児童センターが中町にあります。あとは、にこっとさんでやっております。酒田市内でいえばそういったところになります。各園に支援センターというところについては、いただいた意見をもとに内部で少しお話をさせていただければと思っております。とにかく、子育て支援の安心感というところは、園に入れるか入れないかというよりも、自分が安心して子育てができる環境がここにあるのかということが、実感としてあるということが大事なかなとは思っています。実際、後でまた資料でご説明させていただくところではあります。入所の申し込み状況も今年度減ってきています。これは少子化の影響と合わせて、育児休暇、育児休業制度が充実してきた、利用者が増えているというようなことも、もしかすると考えられるのかと。きちんとした数字を持っていませんが、そういったようなことも背景にあるのかなとも思っているところです。お子さんが多い保育園、幼稚園に入れるという選択を持つとか、ものすごくきらきらした子育ての時代って、今思い返してもキラキラしていい時代、時間でありますので、そこを支援できるように、内部で協議させていただきまますので、今すぐお返事できるものではないんですけれども、ご了承いただきたいと思いません。

○白畑会長

それでは協議の1番目の令和6年度保育所等利用定員の変更については、これで進めていただきたいと思います。

協議として、(2) その他で何かございますか。

～ 5 報 告 ～

○白畑会長

では、次の5報告に移らせていただきます。まず初めに(1) 令和6年度主な子ども・子育て支援事業について、資料2-1、2-2、2-3により事務局から説明をお願いいたします。

○こども未来課長

(資料2-1により説明)

○保育こども園課長

(資料2-2により説明)

○学校教育課課長補佐

(資料2-3により説明)

○白畑会長

それでは、ただいまご説明ありました、令和6年度主な子ども・子育て支援事業につきまして、ご質問ございましたらお受けしたいと思います、いかがでしょうか。

○佐藤 由夏委員

意見といたしますか、教えていただきましたかったですけれども、保育こども園課さんの(1) 保育こども園総務管理事業ですけれども、②の保育士等人材確保事業について、今年度から希望ホールで行うとおっしゃったのは、今年度リッチで行ったものということによろしかったですでしょうか。あと、6年度より市内の中学生を対象にした保育士を志す人材を増やすためのイベントを実施するというのが、具体的に簡単でいいので、想定としてどういったものをされる予定なのかというところを教えていただければと思います。

○保育こども園課長

先ほど今年度希望ホールでと申し上げたかと思いますが、今年度はホテルリッチ&ガーデンで開催しています。このガイダンス自体は、平成30年度から実施しているようです。来年度令和6年度は、ホテルリッチ&ガーデンではなく希望ホールのこの小ホールで実施

させていただく予定をしています。ただ、市内の中学生を対象にしたイベントについてご質問ありましたけれども、試験的というような形にはなるんですが、今年はある中学校さんに、公立の保育士と園児がお邪魔をさせていただいて、保育園でこんな生活をしているよ、保育士ってこんな仕事をしてるんだよということ、あとはお子さんの発達というか成長をこんなふうに見ているんだよ、こういうことを望んでいるんだよ、そして保育しているんだよということをお伝えさせていただきたいと思っています。子どもたちについては、何かの発表、お遊戯だとかの発表ができればいいかなと思っているところですけども、市内の中学生を対象にして、保育士という部分で切り取らせていただいておりますが、これをきっかけに保育士を目指す子が増えてくれたらいいなということと、副産物としては自分が愛されて育てているんだということも実感として受け取っていただける時間になると嬉しいなと思っていますところ。来年度は1校だけにお声掛けさせていただいていますが、その翌年度にどのように広げていくかということも含めて、来年度に検討をしていこうと思っていますところ。

○佐藤 由夏委員

イベントってということだったので、中学生の方でどこかに行くようなイベントなのかなと思ったものですから、1校特定でということではまずされるということを知りました。

○白畑会長

ほかにご質問ないようでしたら、次に進ませていただきたいと思います。

では（2）令和6年度保育所等入所申し込み状況について、資料3に基づきまして事務局から説明をお願いいたします。

○保育こども園課長

（資料3により説明）

○白畑会長

ただいま令和6年度保育所等入所申し込み状況について説明がありましたが、ご質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、次に進ませていただきます。それでは（3）ファミリー・サポート・センター利用料金等の変更について、資料4に基づいて事務局から説明をお願いいたします。

○保育こども園課長

（資料4により説明）

○白畑会長

ただ今説明がありました、ファミリー・サポート・センターの利用料金等の変更について、ご質問ございませんでしょうか。

○佐藤 多紀子委員

質問というよりはお願いになるんですけども、私も母子連の事業で支援員を保育士として数年担当しておりましたが、やはりいろいろ活動する中で課題がある事業でした。ひとり親家庭の支援が広がるということで、またいろいろな課題とか出てくると思うんですけども、担当の職員さんとうちの方で、丁寧なご相談の場を設けさせていただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○保育こども園課長

母子連の事業については、なかなかその協力会員が集まらないという状況で、利用がどうも進んでいないという現状があるようです。ただ、こちらの方でも周知だったり利用の促進というのは、母子連さんの事業、またファミリー・サポート・センターの事業、どちらも使える事業ですので、情報提供などはこれまで同様これまで以上に連携をしながら進めていければと思っております。先ほど来、協力会員が不足だということをお話させていただいているんですが、もしご興味のある方がこの委員の中にいらっしゃいましたらぜひご協力いただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○白畑会長

それでは、(4) 第3期子ども・子育て支援新事業計画の策定について、事務局より説明をお願いいたします。

○こども未来課長

(資料5により説明)

○白畑会長

ただいまご説明がありました第3期酒田市子ども・子育て支援事業計画の策定について、ご質問ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。ではこの予定で進むということで皆様からのご協力もお願いしたいということでした。よろしく願いいたします。

では、(5) その他ということで、佐藤委員より情報提供があるということですので、佐藤委員お願いします。

○佐藤 真紀委員

資料なんですけれども、このたび発達障がい応援コミュニティふわりという団体を、私佐藤と、あと同じく発達障がいを持つお子さんを育児中の石川というものの2人で立ち上げをしました。こちらの会なんですけれども、障がいの持つ当事者の方はもちろんなんですけども、そのご家族や発達に心配を持っているお子さんがいる方でしたり、あと支援してくださっている方など、発達障がいについて酒田で気軽に話せる、情報共有したり気持ちを共感し合うことで、少しでも心が軽くなるような居場所づくりをしたいという思いで活動しています。こちらのチラシで言うところの水色の枠内のふわりトークカフェというところなんですけれども、こちらは、何か飲みながら気兼ねなく語り合える場所づくりとい

うところが、主な活動になる予定です。今度、補足なんですけれども、2月末と3月にイベントも予定されていて、その中で防災に関する話というのをテーマとした会を開く予定になっています。元旦に起きた能登半島地震の際なんかも、大津波警報が出ているんですけれども、そういった特性の関連でお子さんがパニックを起こしてしまって、例えばアラートの音が大きくて、びっくりしてしまったりとか、経験したことがない大きな揺れでびっくりしてしまったりとか、ちょっとパニックを起こしてしまって避難場所自体にも行くことができなかつたとか、他の方にちょっと大きい声なんか出してしまうと迷惑がかかってしまうということにされて、避難自体諦めてしまうというご家庭なんかもあったりして、そういった話をされているお父さんお母さんもいらっしやったりしまして、そういった状況下でいかに安全に避難するか、実際に困ったこととか、今回そういった経験はありましたので、困りそうなことなんかを話し合ったりしながら繋がりを持って、防災だけに限ったことではないんですけれども、こういった障がいを持ったお子さんがいる家庭とかご家族がいる家庭でも、地域での子育てに孤独を感じたりとか、いろんな心配を抱え込む人がいなくなるような機会づくりをしていきたいと思っています。こちらは、私もそうなんですけれども、一緒にやっている石川も、専門家ではないので医療的なアドバイスはできないんですけれども、ペアレントメンターという、発達障がいのあるご家族やお子さん当事者の方に対して、共感的なサポートによる支援をする活動資格というのを持っております。もし近くに悩みがある方がいらっしやったり、そういった居場所が必要な方がいらっしやったらご利用していただければと思います。

○白畑会長

ぜひ皆さま、ふわりのことを理解して、広がっていくといいなと思いました。

委員の皆様から、この場で情報提供などございましたらお伺いします。特にございませんか。活発な意見をいただいたため、大変時間長くなってしまいました。ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。では、進行の方を戻させていただいて、事務局にお返しいたします。

～ 6 その他 ～

○こども未来課課長補佐

委員の皆様から他に何かございませんでしょうか。

では、事務局から1件、保育こども園課長からお願いします。

○保育こども園課長

先ほど保育所等利用定員の変更についての中で、池田委員から公立園の充足率がどのようになっているかというご質問ありましたので、お答えしたいと思います。現在、みなと保育園、松陵保育園に、八幡、平田、松山とございますが、全園合わせて73%程度の充足率になっております。一番少ないところだと、例えば松山保育園だと120人の定員に対

して 66 人ということになっておりますので、酒田市公立園としても、定員数というのは、公にしているものについては少し見直しが必要という認識でおります。

～ 7 閉 会 ～

○こども未来課課長補佐（閉会）